

国際比較のための価値・信頼・政治参加・民主主義指標の 日本データ取得とその解析研究

Comparative research project on values, trust,
participation and democracy in Japan

池田 謙一 (IKEDA KEN' ICHI)

東京大学・大学院人文社会系研究科・教授



研究の概要

国際比較調査として重要な3つの調査、世界価値観調査(WVS)第6波、アジアン・バロメータ調査(ABS)第3波、選挙制度の効果の国際比較調査(CSES)第4波、およびソーシャルネットワーク調査をパネル調査として実施することで、多分野の国際比較研究に貢献するのみならず、社会心理学の視点から各比較調査の相互的多面的分析を行い、単独調査では不可能な貢献をする。

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・社会心理学

キーワード：社会指標、政治参加、社会関係資本、社会的ネットワーク、投票行動、国際比較

1. 研究開始当初の背景

世界規模、アジア規模の国際比較調査研究の進展が近年著しく、比較により制度や文化が人々の価値・意見・行動に対していかなる規定力を持ち、また制度の変更がどのような変化を人々にもたらすかの研究が飛躍的に進展している。価値研究、民主化研究、政治参加・投票行動研究、社会関係資本研究の分野において、それらが進行している。

2. 研究の目的

第1に、世界規模レベル、アジア規模レベルの3つの国際比較データを、同一対象者をターゲットとした面接パネル調査を通じて順次取得し、この面での日本の貢献を果たすのみならず、他国では実現していない主要比較調査間の関連性を解析する。第2に、これら3つの調査を補完する形で、ソーシャル・ネットワーク調査をパネルに加え、合わせて制度、文化、価値・ライフスタイル、信頼、ソーシャル・ネットワーク、社会・政治参加、民主主義に関するデータを複合的に社会心理学の視点から検討する。

3. 研究の方法

以下4つの全国調査をパネル調査として実施する。2010年度 世界価値観調査(WVS)第6波、2011年度 アジアン・バロメータ調査(ABS)第3波、2012年度 ソーシャル・ネットワーク調査、2013年度 参院選時に選挙制度の効果の国際比較調査(CSES)第4波。

4. これまでの成果

初年度に次年度以後の本格的な全国調査のためのプリテストを複数実施した。2009年衆院選前後に2調査、2010年2月の非選挙時に1調査(選挙系統調査のパネル調査)を行い、複数の新しい調査項目の開発とABS調査票完成のための国際プリテストのデータ取得を行った。ABS予備調査のNは1262、衆院選時の選挙系統調査のNは1778、後者の追跡調査として実施した非選挙時のパネル調査のNは1528であった。これらを踏まえて国際比較調査の2つの会議で複数の提案を行い(3件プレゼンテーション)、比較調査の構築に貢献すると同時に、日本での実査の準備を整えた。

2年度目には、世界価値観調査2010を実施し、層化二段無作為抽出法に基づき全国の150地点から主に選挙人名簿により対象者を抽出、訪問面接+留め置き調査を実施した。有効回収数2443、回収率57.5%であった。結果はニュースリリースされた。また現在社会貢献のためにデータの公開作業をiPadを用いるソフトウェアの上で、進めている。

主要な知見は次の通り。政治への関心はかつてないほど高まっており、国民の安心な暮らしの実現における国の役割に対する期待が高い。その一方で、政治的効力感は低下し政治との乖離感が高く、政治参加も低下し、全体として国への依存度が上がっている。政府に対しては、財政規律を求めつつ、福祉など行政による再配分機能の充実をもあくま

で求める厳しい要求を多くの人が掲げており、行政の充実を求める傾向は 2000 年からの 10 年間で増大している。他方、個人の立場からは、競争と平等の両立に対する強い矛盾した見解を持つ人々が多数存在している。「収入はもっと平等にすべきか」で「平等」側の回答が 2005 年より 24% もアップし、過去最大。格差社会を強く意識する一方で、競争の望ましさも強調し、競争しつつも共生していくことを望んでいる。そして、社会への参加を強調する脱物質主義的価値観は後退、明確に物質主義的・経済目標を強調するように変化が進んでおり、長引く不況も後押しして心の豊かさ志向がやや後退し、物質志向への揺り戻しが見られる。

この他、当該年度中は国際会議 2 件に出席・発表し、アジアバロメータ調査の打ち合わせと、ソーシャル・ネットワーク調査のための国際比較検討を行った。

3 年度目には、2 年度目調査のパネルデータとして、アジアン・バロメータ調査第 3 波を実施した。新規対象数 4,500、前年度継続数 907 で最終アタック数は 5336、有効回収数は 1880、回収率は 35.2% であり前年度よりかなり低下した。今回も訪問面接調査と留め置き調査を併用するなど長大な調査であったこと、東日本大震災の影響などが考えられるが、サンプルウェイトを用いて十分に分析可能である。このデータを国際比較の他国データと結合して、比較分析可能な形にする作業を進めている。

代表的な知見としては、公的なアジア的価値(例：政治的パターンリズム)に対するコミットメントのなさは日本データでは引き続き顕著である一方、東日本大震災を経たことが私的なアジア的価値の強化につながる可能性が見えることが挙げられる。また政治参加など社会への関与に関しても回復傾向にあることが見て取れた。

3 年間を通じて、比較調査のための国際会議での議論やデータの結合などの作業に忙殺されている。国際比較分の調査票設計はほぼ終了してきたが、獲得したデータは、予め標準化する準備を整えておいても、結合するためには多々の作業を要する。典型的なのは国際標準の職業コードを日本の職業質問文から作成する作業である。これらに平行して公開データの作成作業にもとりかかっている。当該年度での学会報告は 3 件、さらにアジアン・バロメータ調査に関する国際会議と招待講演、ソーシャル・ネットワーク調査に関する国際会議、CSES 調査に関する招待講演を各 1 件行った。一方、査読付き専門誌への掲載は日英各 1 論文が印刷中である。比較データの整備・データ公開作業とともに、これから多角的な論文の執筆を進める段階に来ている。

5. 今後の計画

平成 24 年度以降には 2 つのパネルデータの取得が計画されている。

平成 24 年度実施のソーシャル・ネットワーク調査の項目は、前年までの複数の予備調査の結果、また研究代表者を含めたネットワーク研究の既存の知見を生かした項目作成を進め、24 年度中に実査を完了する。

平成 25 年度実施の CSES 比較調査の時系列化部分は、投票を含む政治参加を規定する政治制度のあり方と人々の政治意識・政治的選択肢の認識・政治行動との間にいかなる関連性があり、それが民主主義の支持、政治参加の洗練と上昇にいかに関係を結びつくかを検討することにある。今回 CSES 第 4 波のテーマでは、政府部門の公的支出の過剰・適切・過小認知(政策領域ごと)、政府の経済業績評価と受益者の公平性認知、政治参加と情報獲得メディアとの関連性(マスメディア、インターネットメディア、対人コミュニケーションなどの媒体別の政治参加動員ルート)を制度の差異によって検討する設計とした。

最後に、日本語では 2 冊の研究書を商業ベースで出版予定である。各年に実施したパネル調査の基本的知見を紹介しつつ、国際比較の視点から見る日本社会に関する総合的な分析書を世に問う機会である。また各国データを統合した比較分析を査読付き英文誌に投稿し続けるが、アジアン・バロメータ関連では英文書籍 2 冊の出版が確定している。

6. これまでの発表論文等

Ikeda, Ken'ichi, Tetsuro Kobayashi, and Sean Richey (2012 in printing) *Recreation and Participation: Testing the Political Impact of Social Interaction. Social Science Quarterly* 43 (2).

池田謙一(2012 印刷中)『アジア的価値』を考慮した制度信頼と政治参加の国際比較研究：アジアン・バロメータ調査データをもとに。『選挙研究』, 28.1.

Ikeda Ken'ichi(2011) Political discussion in daily life, social network environment & electoral outcomes. International Conference on Comparative Electoral Systems held at Instituto Federal Electoral in Mexico City. June 13-14, 2011.

池田謙一 (2011). 「アジア的価値」と政治参加の国際比較：アジアン・バロメータ調査データをもとに。2011 年度日本政治学会大会分科会 D 3 「マルチ・レベル・モデリングの政治学的応用」。於岡山大学。

池田謙一 (2011). 消費の公共性意識の源泉を探る：世界価値観調査 2010 日本調査に基づく探索的検討。日本社会心理学会第 5 2 回大会。於名古屋大学。

ホームページ等

<http://www.ikeken-lab.jp/wasc/>